

すばる新聞

新聞記者・宮城聡

漱石の色紙の贋作発見される



写真・中尾栄治(制作部)

夏回漱石がシェイクスピアの戯曲『オセロー』に当って詠んだ俳句が、SPAC・静岡県舞台芸術センターの倉庫から肉筆で発見された。発見者は、同センター芸術総監督の宮城聡さん。

製作中にSPACの倉庫から

調べによると、宮城さんが来年二月より静岡芸術劇場で上演する舞台ミヤギ能『オセロー』の資料を倉庫で探していたところ、この句を発見したという。句は「白牡丹にしばしたぬら小鉄かな」と詠まれている。

鑑定に当たった国文学者の大岡蓮さんは、「コピー用紙の上に着かれたこと」から、漱石の真筆ではない。宮城さんの筆跡と推察されまうと話しているが、宮城さんはお茶を濁している。

漱石はシェイクスピアの十作品を俳句にしているが、中でも『オセロー』の句は秀逸と言われている。

4 関連インタビュー2面へ

SPAC 芸術監督 宮城聡のひとこと

オセローとデズデモナのふたりは、ときとこれ以上は考えられないほど美しいカップルなんですよ。まあ、身分の上下を超えている。年齢の差も超えている。宗教の違いも超えている(オセローはイスラム教徒です)。そして肌の色の違いも超えている。これだけのハードルを愛のせいで乗り越えてきたんです。それも神の愛とは違って、この人が好きだ、というだけの、何の保証もないただ二人だけの思いが結びついたんだよね。ここまですべての愛の成就を見せつけられると、周りの人はどう思うでしょう? そりゃ、ちやんと傷つけたいの、とさ、みみずちい悪意を抱いてしまうのが、人間というものですよね。でも、そのみみずちい悪意の通りにこのカップルに傷がついてしまった時、周りの人々は一瞬の快感のあとで、なんか自己嫌悪に近いおぼろげな顔がわたりまわります。人間、しよせんこの程度のもので、さびしく。今回の芝居には、その先のことまで返しがあろうと。



©E.TSUWAKI

演出: 宮城聡、謡曲台本: 平川祐弘
原作: ウィリアム・シェイクスピア (小田島雄志訳による)

2018年2月11日(日)、18日(日)、24日(土)
25日(日)、3月3日(土)、4日(日)、11日(日)

各日14:00開演 *2月24日のみ18:00開演

会場: 静岡芸術劇場



写真: 内田陽秋

シイズ「ミヤギ能」軌跡

制作部 中尾栄治

「私はまことにツイていたと思います。一三年前の初演時を振り返りながらSPAC芸術総監督の宮城聡はミウ呟いた。

シェイクスピアの四大悲劇の一つ『オセロー』。黒い肌の將軍オセローと白い肌の貴族の娘デズデモナは互いに深く愛し合うがオセローは部下イアーゴの策略にはまり、嫉妬に狂って遂に妻をその手にかける。今も上演が絶えず、映画にもなったこの名作は、演出家ならば一度ならず上演を考える作品だが、宮城には上演に踏み切れない理由があった。宮城は言う。「デズデモナという女性に厚みが感じられない。」

「罪もなく殺された人は、自分は潔白だと語りたがらう。」

(最終回) 魂の祝祭

だからデズデモナのほうか主役にふさわしい。そう話すのは、平川祐弘東京大学名誉教授。平川は『オセロー』を用いて「夢幻能」を解説する記事を雑誌「文藝界」に発表する際、その主役をデズデモナとしたのだ。偶然この記事を目にした宮城は、すぐさま謡曲台本『夢幻能オセロー』の執筆を平川に依頼した。宮城は興奮気味に語る。「何が素晴らしい『オセロー』の最大の弱点、デズデモナのステレオタイプ性が、そっくり逆転して最大の強みになるのです。」

そもそも『夢幻能(複式夢幻能)』は、この世に想いを残した死者(シテ)主役が、放徳や故人(ウキリ脇役)の夢の中に亡霊として姿を現し、在りし日の栄光や苦しみを話すことで最後は成仏するという形式を取る。デズデモナの霊がシテとなれば、かつて無い『オセロー』になる。宮城は確信を得た。

宮城には他にも秋葉があった。これまで探求してきた一言動分の離しの手法(振り手と動き手の二人で一役を演じる演技法)を用いることで、能の言葉の美しさが、いっそう際立つ。加えて俳優による生演奏。打楽器を中心とした律動が、あらゆる魂を浄化させる祝祭を、力強く演出する。「人間が言葉と肉体に引き裂かれる現代こそ生まれ得た手法」(宮城総監督)だ。これら相まって『夢幻能』は「ミヤギ能」へと生まれ変わる。

心の豊かさが求められ久しい現代、洋の東西を超え、あの世の魂をも震わせる『ミヤギ能』の舞台に、その答えの一端が垣間見えるかもしれない。(了)

GOGO! 芝居くん

No.4 オセロー 作・大岡蓮(SPAC)

結論: 愛は偉大

出演

阿部一徳	加藤幸夫	関根淳子	本多麻紀
美加理	木内琴子	大道無門健也	三島景太
大内米治	榎内結う	寺内亜矢子	森山冬子
片岡佐知子	鈴木陽代	布施安寿香	吉植荘一郎

スタッフ

空間構成 田中文章
照明デザイン 大迫浩二
衣裳デザイン 高橋佳代
舞台監督 山田貴大
照明操作 小早川洋也
音響 山崎智美
美術 深沢謙
ヘアメイク 梶野キョウコ
美術制作 梶野キョウコ
演出制作 佐藤洋輔、市川一弥、渡部宏規
ワンドロップ 高橋佳代子
演出 降矢一美、折本弓佳
演出補助 中野真希
制作 中尾栄治、佐藤亮太
宣伝美術(デザイン) 阿部太一、中野真希

平日も公演やっています!
中高生鑑賞事業 SPACeSHIPげきとも!

SPACでは「劇場は世界を見る窓である」という理念のもと、静岡県内の中高生を対象に招待公演を行っています。〔2/13(火)~3/9(金)〕

以下の日程は、一般販売のお席もごさいます。(枚数限定)

2/14(水) 10:30/14:30、15(木) 13:30、16(金) 13:30、21(水) 13:30
23(金) 13:30、26(月) 13:30、27(火) 13:30、28(水) 13:30
3/5(月) 13:30、8(木) 13:30、9(金) 18:00

ご予約は SPACチケットセンターまで。TEL: 054-202-3399 (10~18時)

観劇バス

こりゃ楽ちゃん!

定員あり。お早めにお申し込みください。

【東京バス】2/11(日) 渋谷発 9:30 → 劇場着 13:00
<片道 1000円> 申込締切: 2/8(木)
申込先: 名鉄観光サービス 静岡支店
TEL: 054-286-5681 (平日9~18時)

【静岡東部バス】2/18(日) 修善寺駅発 10:10 → 三島駅発 11:05 → 沼津駅発 11:40 → 劇場着 13:00
<乗車無料> 申込締切: 2/16(金)
申込先: SPACチケットセンター (左欄/裏面参照)

※お帰りの便はアーティストトーク終了後に出発いたします。